

# 片山内閣府特命担当大臣（金融） 就任インタビュー



片山 さつき(かたやま さつき)

生年月日	昭和34年5月9日
出身地	埼玉県
選挙区	参議院比例区
趣味	テニス、ゴルフ、 オペラ・映画鑑賞、 ペット(ウサギ)の世話

※略歴詳細：[官邸ウェブサイト](#)



高市内閣発足に伴い、本年10月21日に就任した片山さつき内閣府特命担当大臣（金融）に、意気込みや日頃の活動等について伺いました。

ーはじめに、金融担当大臣に就任され、その意気込みについてお聞かせください。

高市総理から、地域金融力の強化やコーポレートガバナンス改革などの様々な施策について、今まで積み上げてきた取組をさらに発展させ、金融の面から力強い日本づくりに貢献するよう、ご指示をいただきました。私が直近4年間で金融調査会長として進めてきた路線が高市内閣でも認められたものと強く思っております。

また、金融調査会長を務めていた立場から、現在の金融庁の政策すべてに自分に責任があると感じておりますので、金融担当大臣として、金融庁の皆さんと一緒にますます頑張りたいと思っております。

ー国会議員を目指すこととなったきっかけについてお聞かせください。

私が大蔵省に入ったのが1982年なのですが、入省当時は国会議員になろうとは全く考えていませんでした。1990年代ぐらいから国会に誘われるようになりましたが、主計官を務めるまでは官僚としてやっていこうと考えていたので、いずれも気が熟さないと思い断っていました。主計官を務めた後、国際局で開発機関課長をしていた頃に、当時の小泉総理から誘われて国会議員の道を歩むこととなりました。具体的にいつから国会議員を目指したのかは覚えていないのですが、このようなお誘いがあるように、当時の財務省は政治に近い場所でしたね。

私が金融に関して痛烈に覚えているのは、当時の銀行局で不良債権処理を担当した2年間で。当時は、日本が初めて金融の破綻処理制度を整備し、不良債権処理ができるような国になったという初期の段階でした。債権や不動産の流動化もなく、いわゆる「デューデリジェンス」という言葉もあまり流行ってなかったし、金融機関の評価の方法も不透明で、金融機関も適切な担保を確保して来なかった時代です。資本注入の第1弾、第2弾はほとんど試行錯誤で苦労しましたが、（元金融庁総務企画局長の）内藤純一氏や、（元金融庁長官の）五味廣文氏らと一緒に色々な仕事をしました。また、徳陽シティ銀行が経営破綻した時には、地元の代議士であった三塚大蔵大臣（当時）のところに伺った思い出もありますし、私は大蔵省銀行局の最後を経験したんですよ。それが、今は「金融庁」として、とても立派で良い役所に育っているの嬉しく思っています。



写真：インタビュアーからの質問に答える片山大臣

## 一国会議員としてこれまで取り組んでこられた中で、印象深い出来事は何でしょうか。

新型コロナウイルス感染拡大への対応です。「急激かつ一般の借り手が耐えられないようなショックが発生した際は、流動性を供給すべき」ということを私は90年代に痛感しました。コロナの時は、その経験を活かし対応したことで、日本は他の先進国に比べると、比較的低い倒産率で危機を乗り越えることができたと思っています。

印象に残っているエピソードとして、岐阜県各務原市にある航空機部品クラスターの話があります。そのクラスターはボーイングが主な納入先の一つなのですが、コロナ禍でボーイングが下請けへの注文を止めてしまったそうなんです。欧米の下請会社は数ヶ月のうちに破産申請して従業員を解雇していましたが、日本はゼロゼロ融資や給付金、雇用調整助成金など、企業と従業員を支えるために様々な政策を実行しました。そのおかげで、コロナが収束してボーイングからの注文が復活した際、日本の航空機部品クラスターはいち早く対応することができ、ボーイングにおける日本の受注比率を上げることに繋がったとのことでした。

もちろん反省すべき点もありましたが、日本のようなタイプの経済において、このような企業を守る政策には一定の成果があったと考えています。この成果の裏には、金融庁と金融機関の日頃からの信頼関係もありますし、何より金融機関自身が社会的な責務を果たそうとしてくれたのだと感じました。

—休日の過ごし方を教えてください。

私は大臣になる前から、土日も全国を回っています。各地の後援会を回ったり、地方議員・地方支部の応援に行ったりしています。そのため、毎年12月31日と1月1日くらいしかゆっくり家にいる日がありません。家でも片付けをしていますから、そもそも休みというものがないんですよ。

大臣になってからは、国会等の重要な会議の前は予定を空けてスケジュールを組んでいただけるので、かえって健康状態がいいかもしれません（笑）。

—お食事の時間も十分にとれないくらいお忙しいですね。

そうなんです。役所に戻ってきて一番懐かしかったのは、旧大蔵省の頃からある食堂がまだ財務省に残っていたことですね。その食堂からうどんを持ってきてもらったりしています。大臣になってから本当に食生活が改善しました。そういえば昔、元大蔵大臣の宮沢喜一氏のお食事中に（レクに）入ったことがあるのですが、和食か洋食の定食をフルで召し上がるんですよ。私もそのくらい食べないと、あの年齢まで活躍できないなとしみじみ思います。

昔はコンビニもなく、役所の中にはパンの売店やカップヌードルの自販機があったのを覚えていますが、それだけでは栄養が不足してしまいますよね。今はコンビニに行けば、栄養があって手軽に食べられるものがたくさんありますので、いい時代ですね。私もタンパク質が摂れるバーなんかを食べますが、かなり頭がすっきりしますので、タンパク質の大切さを痛感しています。

以上

（インタビュアー：広報室長 久米 均）



（ 写真：インタビューの様子 ）